



評者
津田塾大学
学芸学部 教授
西川 賢

コレラの感染様式について
ジョン・スノウ 著／山本太郎 訳
岩波書店（2022年3月）本体780円＋税／250ページ

現代の感染症疫学の原点

18世紀前半のロンドンをコレラという疫病が襲った。コレラは、もとはインドの風土病だったが、英国がインドを支配下に置くと、瞬く間に世界中に広がった。

当時の人々はこの正体不明の疫病の流行におびえた。コレラがなぜ発生し、どのように伝染するのかが分からなかったからである。コレラの原因について、さまざまなデマも飛び交った。コレラは感染者から発生した瘴気が原因で空気感染するとか、果ては数百年前にペストで死んだ人々の墓から感染源がよみがえったという説まで出回った。無論、いずれも誤りだったことは言うまでもない。

では、いったいコレラの原因は何で、どうすれば防ぐことができたのか。その謎を解明したのが、英国の医師だったジョン・スノウである。本書は、スノウがコレラの原因を突き止めるまでの過程を描いた報告書である（刊行は1855年）。

スノウによれば、コレラが蔓延した家庭は一見するとランダムで、共通の要素はなさそうだった。だが、彼の観察によれば、それらの家庭には一つだけ共通点があった。全ての家庭が同一の会社から水道供給を受

けていたのだ。スノウによれば、取水方法を改善したり浄化に力を入れたりした水道会社はコレラ感染を減らした。だが、下水の混じる水を飲んだり、河川から直接水をくんで飲んだりした人々に感染が多かった。そこでスノウはこう推理した。「感染者の排泄物が混じる水を飲んだと思われる人々に感染が多い。病原体は感染者の排泄物に存在し、それを含む水が感染源に相違ない。そこを改善すれば、コレラはきつと防げる」。これは非常に正確な推論であった。

本書は、新型コロナウイルス感染症に苦しめられている現代人にも大きな示唆を与える。第一に、疫病に関して根拠のないデマを信じたり、それを広めたりすることをやめること。第二に、疫病の原因や防止方法を考える際は、科学的な根拠に基づく議論をし、いい加減な憶測をしないこと。

スノウは、本書をこう締めくくる。「病気の伝播様式を正しく知り、適切な予防策を講じることによって、将来的には必ずこのような死亡を防ぐことができるはずである。そう希望を抱くだけの大きな理由がある」――。

われわれを苦しめ続ける新型コロナウイルス感染症も、いずれ人類の英知によって克服されるに相違ない。そのためにも、われわれはスノウが遺した教訓を忘れるべきではない。